

オオクワガタ

日本のクワガタの中では、最大級の大きさになります。オスは28mm～77mm、メスは26mm～49mmほどです。

オスは、大アゴの中央から先よりに大きな内歯（内側のトゲ）が1本あります。

主にブナの原生林など局所的にしか生息していません。

成虫が見られるのは、5月～9月ころまでです。夜行性で、ブナやクヌギなどの樹液に集まります。性格は臆病（おくびょう）で、昼間は樹液の出る大木の洞（うろ）に隠れ、夜でも見つかるとうすぐに洞の中へ隠れてしまいます。

メスは交尾後、落葉樹などの朽木の中に産卵します。孵化（ふか）した幼虫は、その朽木の材を食べて成長し、2年後に成虫になり越冬します。孵化から3年目に活動を始め、成虫の寿命は3年～5年です。

近年、クワガタブームによる乱獲や、生息環境の減少で個体数が減少しています。また、放虫されたと思われる個体も増加し、遺伝子汚染（いでんしおせん）が心配されます。



富士市の現状

今回の調査では確認されませんでした。愛鷹山中など人が入れないような林には、生息しているかもしれません。

オオクワガタを確認したメッシュ

